

2021年5月1日発行

鵬 際

HOSAI

「鵬際」鵬は翼の巾3,000里、一飛びで90,000里という伝説上の中国の鳥。そこで鵬（おおとり）が飛ぶ（＝はるかなかなたの）空のことを言う。「際限のない」という意味でも使われる。私たち経済開発同友会の目指す活力ある八代づくりも、言わば際限のない努力を必要としますが毎年この機関誌を出すことによって一步一步目標に近付きたいものです。その願いを込めて誌名を「鵬際」と名付けました。尚、題字は本島小夜子先生にお願い致しました。



八代経済開発同友会
(通巻第133号)

<http://www.goroyoka-yatsushiro.com>
E-mail: jimukyoku@goroyoka-yatsushiro.com



八代経済開発同友会 令和2年度 スローガン

尖（トガル）

鋭い感性（個性）とアイデアに基づき
夢の実現に向けた同友会活動を行う

八代経済開発同友会 第57代 代表幹事

吉 武 卓 哉

私共八代経済開発同友会は“奉仕の志を持つ者が、ともに集い学び合い、幸福感のある企業と活力ある地域づくりに貢献する”の理念の下で様々な事業を展開しております。

昨年2020年は、東京オリンピック・パラリンピックが盛大に開催され活気あふれる一年になる予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の為、世界中がこれまで経験したことのない年となりました。

昨年1月頃に新型コロナウイルス感染症が話題になり始めましたが、差し迫った危機感はなく日常生活に大きな影響はないと安易に考えていました。しかしながら、3月に入ると急速にコロナ禍の影響が及ぶ事となり2020年3月2日より小・中・高校の臨時休校に始まり、4月には緊急事態宣言が出され、突然の決定に戸惑いは隠せずコロナ禍の中での対応を問われる状況となりました。本会におきましても4月通常総会を紙面決議とし、懇親会を中止いたしましたが、オンラインにおけるリモート接続の環境構築を早急に行い、5月例会からオンライン方式に切り替え、各委員会及び幹事会等、その時々状況に応じて本会の運営を実施いたしました。

情報発信委員会では7月例会にて～withコロナ時代の新しいビジネス戦略のヒント～と題し、株式会社マルク代表取締役 小山社長にご講演頂きました。コロナ禍での最新の考え方・ツールのご提案を頂き企業としての方向性を見いだせた例会となりました。

港みらい委員会では9月例会をくまモンポート八代で開催し、公園等の視察・観光拠点としてのノンシップデー（クルーズ船未就航日）の活用等、アンケート調査を実施し、交通アクセス問題・インバウンド・物流拠点構想等、次年度への展開に繋がる取り組みを行うことができました。

会員企業活性化委員会では10月例会にて肥後銀行経営企画部サステナビリティ大野推進室長を講師にお招きしSDGsの基礎知識や取り組み状況等、本会メンバーによる取組事例の発表を行いました。そして「安心なまち八代プロジェクト」の進捗状況及び{TUNAGU事業}の取組等、

会員企業の成長と地域づくりに貢献できる内容でした。

八代・天草シーライン建設促進委員会では、2月に東京都道路公団橋梁課長の紅林様とオンラインでの講演をいただき、～橋への想い 東京の近代化はやつしろからはじまった～と題し、日本遺産認定になった石橋のお話やシーライン建設実現に向けた内容の講演を頂き次年度に向け更なる運動展開のヒントを得た例会でした。

地域支援企画運営委員会において3月28日「八代を創造（たがやした）石工たちの軌跡～石工の郷に息づく石造りのレガシー～」と題して移動例会を開催致しました。単独で日本遺産の認定を受けた八代の新たなタカラを認識し楽しみながら学べる例会になりました。

また本委員会におきましては、献灯運動や妙見祭における過去5回のどや顔コンテストのパネル作成及び八代駅構内での常設展示、各金融機関をはじめ市内各所で現在も移動展示を行い、ユネスコ無形文化遺産になった八代妙見祭を側面よりバックアップさせて頂いてます。

更に、会員交流・拡大委員会においては、コロナ禍の中で、10名の会員拡大と、新会員に対してのフォローアップ、例会時における新入会員の紹介、密を避けての第1回釣り大会等の企画運営を頂き感謝申し上げますと共に各委員長をはじめ、メンバーの皆様方に重ねて感謝と御礼を申し上げます。

最後に、2020年7月3日熊本県・鹿児島県を中心とした記録的な大雨により球磨川流域での氾濫・浸水、大規模な土砂崩れ等、九州全土において被害が及び、今回の豪雨により芦北・人吉・八代地域において甚大な被害が及んでいます。被災地域の皆様が日常の生活を取り戻すまでには、まだまだ時間と労力がかかることが予想されますが、コロナ終息と共に1日も早い復旧・復興を願い地域の商圈に活力が戻る事を願いますと共に次年度も行政、経済4団体の皆様と連携を図り、本会の活動を行ってまいります。今後も皆様方の御支援とご協力をお願い申し上げます。

本年度を振り返って



専務理事

村田 眞一郎

本年度は、次年度幹事会などの準備段階から、新型コロナウイルス対策が会の運営で一番の課題でした。当初は、10年前の東日本大震災、5年前の熊本地震など、未曾有の災害を経験している我々にとっては、地震や災害と同じように被害の実態は様々な方法で情報として入手でき、今後の社会的経済的な影響などもあらゆる方面から検討、予想などを知ることが出来るので、それを元に分析してある程度の今後の会の運営等を検討し方針を立てる事は、先の地震に比べると私自身は容易だと思っていました。

しかし、今回の新型コロナに関しては、実際の被害実体やこれまでの感染症対策の科学的な見地とは全く違う、ともすれば真逆の方向で社会が一斉に進み始めたので、感染症被害の実態や感染症拡大予防の常識とは全く別の基準に基づいた判断をしなければなりません。

熊本地震の際、動物園からライオンが逃げ出したというデマがありましたが、今年一年は、ライオンが逃げ出したという情報がデマかどうか確証がないので、逃げ出したかもしれないという可能性も視野に入れて、地震の復興をしなければならないというような状況だったように思います。

そういった自身の状況では、本来ならば会員一人一人の考えや意思と向き合わなければいけないのを、読めない社会的な基準や風潮だけに向き合うことしか出来ない一年だったように思います。

次年度は、初心に帰り会員一人一人と向き合い代表幹事を中心として会員の考えや意思を第一に専務理事の役を担えるようにしたいと考えます。



副代表幹事

三枝崎 能久

本年度は、八代・天草シーライン及び地域支援の両委員会を担当致しました。このコロナ禍に於いても、飛石・江崎両委員長の活躍は目を見張るものがあり、まず八代・天草シーラインに関しましては、大きな一歩となる県に協議会が設立されました。ここに至るまでは諸先輩方の御尽力のお陰ですが、皆様方にご協力を頂きながら、飛石委員長の地道な署名活動も大きく影響したと言っても過言では無いと思います。更に担当例会に於いて「土木の場合実現する有無かは、地元の皆様の熱意、そしてそれを受けて動く政治力です。国力が下向きとはいえず、天草五橋を架けた当時の財政力や技術力と比べ、いずれも現在でははるかにあると思います。ぜひ、実現に向けて頑張ってください」と紅林講師より心強いエールを頂き、飛石委員長もメラメラと燃え上がっております。

次に地域支援企画運営に関しましては、この状況下

に於いても、江崎委員長の常に前向きに一生懸命チャレンジする姿を見せてもらいました。出来ないではなく出来る方法を検討して行った結果、継続事業である「どや顔事業」と「献灯運動」も大きな反響を頂くことが出来たと思います。これだけでも大変な事業だった訳ですが更に、八代の宝となるポテンシャルがある「石工」にスポットを当て、昨年日本遺産に認定された文化財群の発信にも取り組んでいきました。

私自身も両委員長を始め、皆様方から多くの事を学ばせて頂くことが出来た一年であったと思いますし、皆様のお陰で当会の「理念」に沿った活動が展開でき、恵まれた一年であったと感じております。皆様、お力添えを頂きありがとうございました。



副代表幹事

高崎 正

今年度、副代表幹事として会員企業活性化委員会と港みらい委員会を担当させていただきました。コロナ禍の真只中で両委員会とも思うような活動が難しい中、港みらい委員会担当のくまモンポート八代での9月の移動例会、及び、会員企業活性化委員会担当のSDG'sについて学んだ10月例会は、幸運にも集合研修として実施することができました。それぞれ担当する地域活性化の課題は違いますが、両委員会ともにコロナ禍という逆境の中で、それぞれの課題解決に真摯に取り組んでいただきました。心から感謝申し上げます。

副代表幹事を拝命して一番良かったと感じていることは、2つの委員会メンバーの皆さんと活動できたことです。同友会の醍醐味は何と言っても会員同士の交流と常日頃から思っている小職にとっては、一人で2つの委員会の皆さんと交流できたことはなによりも大きな喜びでした。

両委員会とも次年度も引き続きの活動が予定されておりますので、新しい副代表幹事と委員長のもとで、さらに深化された活動が展開されるものと期待しております。

個人的には副代表幹事としての活動は何も爪痕を残すことができなかったことが心残りではありますが、吉武代表幹事をはじめ常任幹事会及び幹事会の皆さんには一年間、一方ならぬご愛顧を賜りました。本当にお世話になりました。新体制の下で次年度も精一杯頑張っておりますので、引き続きご指導を賜りますようお願い申し上げます。



副代表幹事

坂本 文仁

本年度を振り返ってみますと、コロナに振り回された一年だったと思います。

ちょうど本年度を準備するころから新型コロナウイルス感染症の感染患者の増加が始まり、幹事会など人の集まる会への注意勧告などの影響で全く準備のできないうまでのスタートだったような気がしています。

会員交流拡大と情報発信の委員会を担当させて頂きましたが、コロナ禍の中会員の交流は非常に限られたものとなり、慶寿のお祝いは開催できませんでした。何とか野外で行う魚釣りや、ゴルフは開催できましたが、これはこれで7月豪雨の影響で予定より大幅に遅れての開催となりました。情報発信においてもいろんな予定が中止される中非常に苦労しながらの運営でした。

今年とは思っているところ、年明け早々熊本県独自の緊急事態宣言が発令され、今年も全く活動できないのかと思ってしまう。しかし何とか終息に向かっていくようで2月の例会では多くの会員の方と久しぶりにお会いでき元気をいただきことができました。

ZOOM会議などニューノーマルな生活の中ではコミュニケーションの取り方が変わってきています、けれども本当のコミュニケーションとは？今年がヒントになるのではと思いながら次年度も会員交流拡大の委員会を担当させていただきます。

早くワクチン接種が隔々まで行き届き、制限のない交流や活動ができるよう心から願います。



八代・天草シーライン
建設促進委員会
委員長
飛石 幸弥

令和元年に「八代・天草シーライン」と名称が変更になった事で機運が一気に盛り上がり、今年度の活動としては更にこの状況を高めていかねば、という時に新型コロナの影響で中々委員会が開けず、また7月の豪雨災害もあり積極的なPR活動が出来ず、申し訳ない一年となりました。そのような中でも出来る事をと、チラシ・ポスターの製作、啓発看板の書き換え、シーラインの単独ホームページの立上げなど、地道に活動を行って参りました。また、2月例会では東京都道路整備保全公社の紅林様より八代・天草シーラインの早期実現に向けた講演を頂き、たくさんの皆様のご参加とご協力で、今後の活動に活かせる手応えのある内容の例会を開催する事が出来ました。特に今回お力添えを頂いた(株)橋梁通信社

阿部社長様と強力な繋がりを作る事が出来、次年度以降の取り組みに新たな展開が期待される所です。

次年度も引き続き委員長職を任せて頂くことになりました。署名活動や夕焼け発信事業の他、早期実現に向けて地元の熱意を伝える事業に力を入れて行きたいと考えていますので、ご協力の程よろしくお願い致します。今年度一年間、コロナ禍の中で様々なご事情の中ご参加頂いた委員会メンバーの皆様、ご協力頂いた会員の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



地域支援企画運営委員会
委員長
江崎 光幸

令和2年度は新型コロナの影響で同友会の活動にも様々な制限が掛かり、中々思うように委員会や事業が出

来ませんでした。そんな中でも委員会では継続事業としてどや顔コンテストと献灯運動を行いました。

どや顔コンテストでは今までのフォトコンテスト形式を変更し過去の写真をパネルにし、八代市内外に今なお展示され、皆様中止になった妙見祭を身近に感じていただいていると思います。

また献灯運動も祭りの神幸行列は中止になりましたが神事などは開催され、献灯された提灯の数も40個となり、妙見宮を明るく照らし、来年への妙見宮への期待と希望になりました。

さらに2020年6月には八代を創造(たがや)した石工たちの軌跡～石工の郷に息づく石造りのレガシー～が日本遺産に登録となり、同友会でもコロナ禍の中ではありますが感染予防対策を万全にし、3月例会を開催しました。実際に日本遺産を見ることで八代にもまだまだ魅力のあるタカラがあることに気づきました。

次年度は委員会名をやつしろのタカラ探し委員会に変更し、継続事業のどや顔コンテストや献灯運動を行い、日本遺産の周知にも力を入れて行きます。今年度一年間、コロナ禍の中で参加していただき、委員会を盛り上げていただいた委員会メンバーの皆様、例会や事業にご参加、ご協力頂いた会員の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



会員企業活性化委員会
委員長
木本 清勝

委員会基本方針では「TUNAGU事業」の邁進と経済4団体との連携を図り、「SDGs」を学ぶことにより「魅力ある企業」「就職したい企業」になるヒントが得る事を掲げさせて頂きました。活動としては4団体連携として「オシゴト図鑑」の発行及び当会での「安心なまちやつしろプロジェクト」登録促進サポート等を行い、担当例会では「SDGsを通して未来の八代のために」と題して、肥後銀行経営企画部サステナビリティ推進室の大野室長から、SDGsの基礎知識や肥後銀行様のSDGsへの取組み状況等について説明をいただき、同室の山中様から熊本県内の取組み事例紹介と会員企業より、クギヤ印刷(株)様及び東京海上日動火災保険(株)様からの事例発表などを企画した、例会も開催することができました。

コロナ禍の中、通年とは違う準備等もあり、貴重な経験ができたと感じています。ただ「TUNAGU」にしても「安心なまちやつしろプロジェクト」にしてもまだまだ土台作りで終わってしまい、反省の部分があるのも事実です。

来年は違う角度から委員会をサポートできればと考えていますがまずは1年間、共に活動して頂いた、委員会メンバーの皆様、一年間大変お世話になり、ありがとうございます。来年も当会全体で「TUNAGU」及び「安心なまちやつしろプロジェクト」の促進の程、宜しく願い致します。



港みらい委員会
委員長
俵 壮一

港みらい委員会は昨年3月に完成したくまモンポート八代の利活用を率先して考え行動することを中心に委員会活動を行ってまいりました。しかしながらコロナ禍でくまモンポートの開園は延期され、クルーズ船の寄港も目途が立たないまま一年間が過ぎようとしています。そんな中で当委員会は9月19日(土)くまモンポート八代で9月例会を開催しました。

9月例会は熊本県土木部港湾課より数名の方が施設の案内をしていただき、くまモンポート八代の現状を参加した皆さんで確認することが出来ました。

当日はアンケートを実施し、くまモンポート八代の活用法・現時点での改善点などをピックアップして頂きました。アンケート結果を踏まえて今後の活用法をまとめ、更には熊本県議会の質問でも取り上げられ私達委員会での議論が紹介される等一定の情報発信をすることが出来たものと思います。また、現在取り組まれている【あんしんな街やつしろ】と共に【安心なくまモンポート八代創り】にも取り組むことで、クルーズ船の寄港・一般の方の来場にも寄与できると考えます。来年度は船が寄港しない、いわゆるノンシップデーの活用法を重点的に考える事で港の活性化、八代の活性化に繋がると確信し、『くまモンポート八代』を八代の新しいランドマークにしていきたいと思います。



会員交流・拡大委員会
委員長
下田 和利

本年度を振り返って見ますと、交流に関しましては、コロナに始まり、コロナに終わったという思いでいっぱいです。慶寿の会を企画担当しましたが、再再延期の末、中止という思いもしない事態になり皆様には大変ご迷惑をお掛け致しました事、深くお詫び申し上げます。ただその中で、公式ではなくとも、ゴルフ大会・そして当会初のタイ釣り大会を企画実施できました事は大変嬉しく思いますとともに皆様のご協力の賜物と深く感謝いたします。

拡大では、コロナ禍の中、委員会一同大変苦労しましたが、見事目標である100名を年末に達成することができました。これも、会員の皆様の日頃よりの増強に対する意識の結果だと感謝いたします。

当委員会にとりましては、本当に逆風の1年でしたが、その厳しい中でもきちんとやることはやってのけたという思いでいっぱいです。来年も状況は引き継ぎ厳しいとは思いますが、皆様の熱意で当会の益々の発展を心から願いたいと思います。一年間ありがとうございました。



情報発信委員会
委員長
中尾 衣井子

昨今の頃はコロナにここまで振り回されるとは思っていませんでした。本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から思うように活動が出来ず、昨夏には球磨・芦北地方を中心とした豪雨災害もあり、経験したことがない1年だったように感じます。

初めて委員長を拝命し1年間活動して参りましたが、年度当初に思い描いていた活動が出来なかったと反省しております。特にSNSを通じての情報発信が手薄になってしまいました。広報誌「鵬際」は予定通りの回数を発行致しましたが、内容については自信を持って良かったと言える仕上がりではなかったと痛感しております。ただ、コロナ禍に於いて7月例会を担当し、今年度初の顔を合わせての例会が開催出来た事は有難い思い、会員の皆様方へ感謝の思いで一杯です。それと毎月開催は出来ませんでしたが、委員会開催時は多くのメンバーにご参加頂き、毎回貴重なご意見・アドバイスを頂いた事も有難かったです。素晴らしいメンバーに囲まれた事も感謝しております。

委員会メンバー、そして会員の皆様、一年間お世話になり本当にありがとうございました。



事務局長
宮崎 慎也

本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりなかなか集まることができない中で新しい生活様式にチャレンジした一年となりました。

月に一回ずつ行われる、幹事会と常任幹事会においてはZOOMミーティングによるWEB会議が主流となりました。初めは、ZOOMの使い方がわからず苦戦の連続でした。しかし、会議を重ねるにつれて配信もスムーズに行うことができるようになり、同友会のZOOMアカウントを取得し、ZOOMがなくてはならないツールとなっていきました。会議運営にご協力いただいた幹事メンバーの皆様には心より感謝いたします。

また、例会や総会もWEB配信に切り替わりました。これも会議同様に苦戦を強いられ、5月例会ではSUN ABACO八代様にご協力をいただきながらの配信となりましたが、1月臨時総会では当会のみでの完全配信を行うまでに至りました。会員の皆様には、WEB配信による例会・総会という初の試みで、至らない点も多々ありご迷惑をおかけした点もあったかと思いますが、ご参加いただき心より感謝申し上げます。

このように今までにないことにチャレンジの連続となった一年間と感じております。西村事務局員をはじめ、事務局メンバーの方々、会員の皆様には様々な面で協力いただき、助けられ、また多くのことを学ばせていただいたことに感謝いたします。本当に世話になりました。

11月例会報告

令和2年11月18日(水)19:00～
会場 ホワイトパレス

令和2年度定期総会が行われ、第一号議案では令和3年度 代表幹事選出と後期会員会費の件、第二号議案では後期会員会費の件が審議されました。令和3年度代表幹事には令和2年度から続投で株式会社メディアの吉武卓哉会員が選出され、後期会員会費変更も満場一致で承認されました。その後、今年度の各委員長からの熱い委員会事業報告が行われて総会が閉会となりました。予定していた時間通りスムーズに進行できましたことを会員の皆様には感謝申し上げます。



総会終了後、懇親会の次年度代表幹事を囲む会では、コロナ対策が万全にされた形式で会食を楽しみました。オブザーバーで(有)神園交通の神園久仁子会員が参加されました。また、サプライズで、吉武次年度代表幹事のご子息夫婦からZOOMで代表幹事続投のお祝いのセレモニーが行われ、和やかな懇親会となりました。

1月総会報告

令和3年1月28日(木)19:00～
会場 ZOOM

令和2年度1月臨時総会がZOOMにて行われました。次年度幹事及び役員予定者で出席できるメンバーは会場に出席してもらい、現地に來られない会員はZOOMで参加するハイブリット形式でした。第一号議案では「令和3年度 組織図」、第二号議案では「令和3年度 役員選出」が審議されました。審議中は質問もあり、活気のある総会となりました。令和3年度は副代表幹事が4人となり6委員会で組織されます。委員会は新しく「やつしろのタカラ探し委員会」と「やつしろ安心なまちプロジェクト推進委員会」ができ、次年度もワクワクする一年となりそうです。引き続き「令和3年度

八代経済開発同友会」も宜しくお願いいたします。



2月例会報告

令和3年2月25日(木)19:00～
会場 八代グランドホテル

2月例会は、「橋に込める想いー八代・天草シーラインの早期実現に向けてー」と題して、東京都道路整備保全公社 橋梁担当課長(アセットマネジメント室長) 紅林章央様から東京よりリモートでの講演をいただきました。東京の近代化は八代からもたらされた・・・幕末から明治に移り東京のインフラ整備が急務となる中で、災害面や維持管理面でもメリットのある石橋の建設が進み、その際に当時八代の石工たちが深く関わっているお話から始まり、まず衝撃を受けました。その後近代化が進み石橋から鉄の橋梁へ変わっていき、災害に強い橋、車社会を見据えた橋など時代と共に移り変わる建設様式、それと共に進歩していく日本の技術力、そして現在の先進諸国との公共事業の比較(日本は先進諸国の中で公共事業費が最も低い)など、先生が建設に関わられた橋や現地まで足を運ばれた国内外の橋の紹介もあり、とても興味深い内容でした。



中でも、1990年代瀬戸大橋や明石海峡大橋などを架橋し世界一の橋梁技術を誇った日本も、2000年代に入り本四架橋など様々なビッグプロジェクトが収束、新規事業は公共事業への逆風によるコスト削減が叫ばれる中で次々に減少・凍結し、橋梁技術力の低下や人材の海外流出が起き、現在では中国や韓国の後塵を拝するようになって

しまっている現状を懸念されておられました。そこで、日本の技術力を取り戻すためには、橋梁のビッグプロジェクトが不可欠であり、地震や災害が多くリダンダンシーの確保が不可欠な我が国で、防災上も天草と結ぶ新たな架橋が必要であり、観光資源としても活用でき、橋梁技術の向上にも寄与できる・・・八代・天草シーラインはその要となるプロジェクトになり得るとの力強い見解もいただき、実現に向けて期待感高まる講演となりました。今回はコロナ禍の中ではありませんでしたが、会員の皆様他、八代市企画政策課・八代商工会議所・八代市商工会・八代青年会議所・眞木前代表幹事とたくさんのご参加をいただき、3ヵ月ぶりの集う形での例会開催が出来ました事、大変感謝致します。また、今回の例会を企画するにあたり、(株)橋梁通信社代表取締役社長 阿部清司様に、ご多忙の中講師手配や橋梁通信へのシーラインに関する記事掲載などご協力いただき、感謝申し上げます。ありがとうございました。

3月例会報告

令和3年3月28日(日)10:00～
移動例会

昨年6月に日本遺産へ登録となった「八代を創造(たがや)した石工たちの軌跡～石工の郷に息づく石造りのレガシー～」を実際に見て学び、八代の新たな魅力を再発見する目的で、3月28日に例会を開催致しました。



早朝から生憎の天候でしたが、水島から日本遺産探索の旅に出発致しました。八代市文化振興課米崎様と八代ガイド協会中村会長に解説を頂き、八代の干拓の広がり方や歴史・それに伴う住所の不思議や、地元の方々



が石橋を大事にされてきた事・石橋を作るのに地元の方々が尽力された事を学びました。めがね橋など数々の石橋・石垣を実際に見て、当時の卓越した技術が感じられ、熊本地震などの災害にも耐え抜き現存している事に驚かされました。

八代に現存している魅力をもっと発信出来ればと思います。



新入会員の紹介



飯田 健二 会員

41歳
焼肉 夢∞元
代表

経営理念 NO YAKINIKU NO LIFE
(すべてのご縁は仕事の中にある!!)



神園 久二子 会員

34歳
有限会社 神園交通
代表取締役専務

経営理念 「我々は旅客輸送を通じて社会に対し最大の利益提供者になる」



淪 桃子 会員

41歳
株式会社 WAVE
Baby Loveプロデューサー

経営理念 おむつケーキを通して、お客様からお相手様へと笑顔が届ける事を目的とする。笑顔の波紋が広がる事を願い、私たち自身も笑顔であり続け、関わる全ての人達に幸せを提供する。



藤浦 純也 会員

51歳
株式会社 藤浦本店
代表取締役

経営理念 期待のその先へ、創造力を研ぎ澄まし笑顔あふれる住環境を個客に提供します。



前田 文彦 会員

58歳
太陽開発株式会社
総務部長

経営理念 事業を通じ、地域社会づくりを志す



和久田 翼 会員

34歳
プラスワン美容室
チーフ

経営理念 つねに考える
自分で考え 自分で創り 自分で売る

コロナ禍で生活がどう変わりましたか？

会員の皆様へアンケートをお願いし、回答頂いたものを掲載しています。

①コロナ禍で変わった事

【ビジネス編】

- ・積極的にネット等で情報収集し、必ず相対する2つの見解を聞くことを意識的にするようになった
- ・経済的な活動の局面と社会生活の上での局面では、明らかに違う基準で物事を考えるようになった。ダブルスタンダードが既定のスタンス。
- ・与えられた環境で、集団の中の一個人ではなく、単純に個人としてどれだけ出来るかをシビアに考えさせる場面が増えた。お陰でより自分の成長をシビアに見れるようになった。
- ・今まで当たり前にあったものを、改めてその必要性を再考する機会となった
- ・忘年会や新年会等の社内イベントが実施出来ず、社員同士の融和を深める事が難しい
- ・仕事が減った
- ・訪問営業が出来なくなった
- ・会議が殆どTV会議になった、もしくは中止となった
- ・社外との懇親交流がなくなった
- ・経済の沈下
- ・仕事に対する考え方が変わった。今までのやり方では取り残される時代だと感じる。



【プライベート編】

- ・旅行が出来なくなった
- ・子どもが帰省出来ない
- ・飲み会が減って生活費が半減した
- ・老健施設に入所している親に会えなくなった
- ・親戚や友達との付き合いが減った
- ・冠婚葬祭への参加がなくなった
- ・テレビ電話が増えた
- ・テレビの録画本数が増えた
- ・病院に行くのが怖くなった
- ・咳をしなくなった（出来ない）
- ・イベント中止により人的つながりの低下
- ・外出が減った
- ・日々の体調管理や検温を行うようになった
- ・外出自粛が続き、テイクアウトを利用するようになった
- ・マスクの種類に興味を持つようになった
- ・免疫力について意識するようになった
- ・自分の行動を考えるようになった



②コロナ禍で新たに始めた事

【ビジネス編】

- ・売上減を補填するための値上げ交渉
- ・お客様とのメールでのやり取りを増やした
- ・テレワークやリモート会議を増やした
- ・コロナ感染対策の備品設置、換気
- ・自社商品の開発

【プライベート編】

- ・除菌用品（マスクやアルコールスプレー等）の携帯、うがいや手洗い
- ・接触確認アプリCOCOAの情報確認
- ・新規感染者の動向確認
- ・マスクの徹底
- ・節約
- ・間隔を空けての会話
- ・新たに始めた事がない
- ・自宅の片付け、断捨離、庭の手入れ



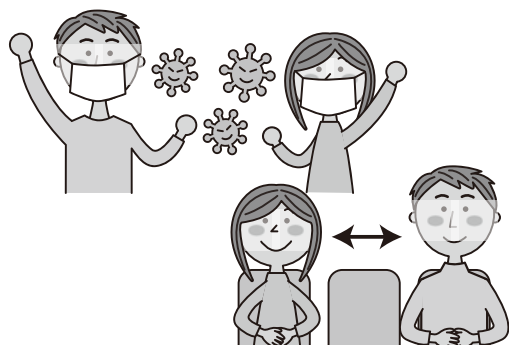
③コロナ収束後に始めたい事

【ビジネス編】

- ・訪問営業
- ・各種イベント開催や地域ボランティア活動
- ・飲み会にケーションによる慰労
- ・経済活動の活性化
- ・花見や社員旅行、忘・新年会などの会社内行事

【プライベート編】

- ・収束して元の生活に戻ると言う事は難しいと思うので、コロナ騒動で出た様々な見解や主張を、結果を踏まえて冷静に個人的に検証していきたい。そしてそれを社会ではなく自分の子ども達へ伝えて行きたい。
- ・海外旅行や国内旅行
- ・旅行やゴルフなどの趣味の再開
- ・友人との懇親会、盛大な懇親会
- ・八代市内の飲食店への貢献、外食
- ・コロナ以前の普通の生活



実現しよう!

八代・天草シーライン

私たちは、八代 - 天草を結ぶ海上道路の早期建設を求めます!

八代◀車で10^分▶天草
8.8km

昭和60年(1985年)細川熊本県知事が熊本都市圏を結ぶ90分構想を発表。八代・松島町間の自動車道路建設構想も発表されたことがきっかけで平成元年より期成会をつくり運動を展開しています。

整備効果

熊本県南・天草地域相互の交流・連携を強化し、新たな魅力を持つ圏域を生み出す効果があり、さらに、成長著しいアジアの活力を引き込み、九州東西軸の対流を促進し、日本海国土軸・太平洋軸の2面活用寄予するなど、九州広域圏や国土形成上の観点からも、大きな成果が期待されます。

効果1
天草市本渡 ⇄ 八代IC
120分→60分の
所要時間短縮が可能

効果2
人流や物流だけでなく、
天草地域と九州本土間の
災害時のアクセスルート
確保につながる

※写真はイメージです



<https://yatsushiro-amakusa.com>

※八代・天草シーライン建設を要望する署名や、アンケート等を実施しています。詳しくはホームページをご覧ください。

各事業所が八代独自の基準による新型コロナウイルス感染防止対策に取り組んでいます

安心♥八代



＼ わたしたち、感染防止やっています!! ／
安心なまち やつしろプロジェクト

みんなが安心して行動できるように

行く人も、迎える人も 感染防止対策を行うことが必要です!!

外出時は、感染防止対策ステッカーが貼られている店舗をご利用ください

登録店の店頭には
緑のステッカーが!!



QRコードを
読み込んで
ご覧ください!



※1月20日～ホームページが
リニューアルいたしました。

詳しくはHPをクリック <https://8246.anshinnamachi.com>

search

安心なまちやつしろプロジェクト



●主なプロジェクト団体

八代商工会議所、八代市商工会、八代経済開発同友会
(一社)八代青年会議所、八代市、熊本県県南広域本部、八代保健所

八代地域全体で取り組んでいます

●安心なまちやつしろプロジェクト推進会議事務局●

住所: 八代市大手町一丁目6-27 通信館4階(大手町ヤマハ音楽教室近く、はま寿司裏手)

専用電話番号: 070-7651-8246

受付時間: 平日9:00~16:00
専用メール: anshin8246@magma.jp

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

